

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	舞台実習Ⅰ	
開設学科	声優・演劇科		コース名	声優コース　俳優・タレントコース		開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	105時間
単位数	3単位		授業形態	実習			
教科書/教材	演劇戯曲の台本を中心に使用、必要に応じて配布。ミュージカル戯曲の場合は楽譜を必要に応じて配布。						
担当教員情報							
担当教員	竹本敏彰・千葉繁・室生春			実務経験の有無・職種	有・声優　俳優　演出家		
学習目的							
この科目を受講する学生は、一年次学んだ基礎演技や舞台総合実習を踏まえ、引き続き舞台公演を行う目的で俳優表現の多様性を学ぶ。演劇舞台空間で与えられた登場人物を表現することで、生き生きと自然に生き抜く喜びを体感できるようになる。同時に集団で芸術作品を創りあげる喜びと難しさを実感し、コミュニケーションする力、協調性の重要性を理解することがねらいである。							
到達目標							
学生が舞台空間で生き抜くことの難しさを実感し、実践することで俳優業を理解することが目標である。役者として活動を続けるために必要な努力を模索し、更に、発声力、歌唱力、身体表現力をより発展させ、よりクオリティの高いものを目指しながら、今後の進路、役者としての仕事を深く考察できる力を養うことも目標に加える。							
教育方法等							
授業概要	舞台空間を設定、もしくは戯曲の世界観を個人やグループで演劇戯曲を立体化する。都度、発声力、歌唱力をチェックしながら、作品理解、人物理解が学生ひとりひとりに成されているか確認し戯曲を完成させていく。舞台実習Ⅲと連動し（声優コースは声優演技）、観客に見せるための舞台を総合芸術としての演劇もしくはミュージカルを創り上げていく。						
注意点	この授業では学生の心身が健全、健康であることを何より優先する。学生とのコミュニケーションを重視し、明るく、清しい授業空間を創ることが肝要である。また、快活で積極的な授業参加を求めるため理由のない遅刻や欠席は認めない。態度が改善されない場合、配役の変更や降板も辞さないこととする。授業時数の4分の3を出席しないものは定期試験を受けることができない。						
評価方法	種別	割合	備　考				
	試験・成果発表	60%	実際の公演形式の中での演技表現を総合的に評価する				
	平常点	40%	俳優は日常の鍛錬が重要であり、授業への積極的な参加を評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	「舞台空間に生きる」をイメージする			演劇空間、俳優、観客、その他、照明、音響、美術などの存在を理解する			
2回	グループで創る（1）			グループのあり方、仲間一人一人の存在を理解する			
3回	グループで創る（2）			グループの中での自分の存在を理解し、台本を立体化（立ち稽古）する			
4回	成果発表用の戯曲を創り上げる（1）			観客を意識した演劇作品を創り上げるため、必要な要素を理解する			
5回	成果発表用の戯曲を創り上げる（2）			戯曲（台本）を探究し理解する			
6回	成果発表用の戯曲を創り上げる（3）			戯曲を場面毎に実践しより深く作品、人物を理解する			
7回	成果発表用の戯曲を創り上げる（4）			それぞれのシーンの理解を踏まえ創り上げて行く			
8回	成果発表用の戯曲を創り上げる（5）			それぞれのシーンの理解を踏まえ創り上げて行く			
9回	成果発表用の戯曲を創り上げる（6）			それぞれのシーンの理解を踏まえ創り上げて行く			
10回	成果発表用の戯曲を完成させる（1）			それぞれのシーンを繋げ流れるようにする			
11回	成果発表用の戯曲を完成させる（2）			通し稽古をしながら作品全体の完成度を高める			
12回	舞台公演を振り返る			舞台公演を振り返り今後の課題を見つける			
13回	「舞台空間で生き抜く」の探究（1）			新しい戯曲を理解し、自分の役割、位置付けを理解する			
14回	「舞台空間で生き抜く」の探究（2）			各場面を創り上げていき、同時に各自の演技力の向上を確認する			
15回	「舞台空間で生き抜く」の探究（3）			各場面を創り上げていき、舞台実習Ⅱへの課題を見つける			